



甲斐市立竜王南小学校 自己評価書

令和6年2月2日（金）作成

校長 長谷川 佳代

記述者 職名 教頭 長田 健一

学校教育目標 楽しい学校（楽校）の創造ーやる気 こん気 げん気ー

学校経営の基本方針

- ・「生きる力」をはぐくむ、教育課程の編成と実施
- ・「確かな力」をはぐくむ、わかって楽しい授業の創造
- ・思いやりの心や情操を培い、「豊かな心」を育む、居心地のよい学校・学級（集団）の創造
- ・たくましく生きるための「健康な体」を育む、健康・安全な生活と環境の創造
- ・「信頼される開かれた学校づくり」の推進

1 全体評価

- 自己評価の結果は、高い水準にあるといえる。
 - ・全39問中、全ての設問で肯定的評価（A・B）が85%以上となった。今年度も教育活動全体的に高い自己評価の数値となった。中でも昨年度「ICTの効果的な活用」で否定的評価（C・D）16%となっていた項目が3.8%になり、AB評価が90%以上と高くなっていることから、ICTの「効果的な活用」に対して研修や授業での積極的活用に取り組んだ成果が表れている。
- 児童アンケートの結果では、学習状況で肯定的な結果が多く見られるが、他の設問に課題が見られる。
 - ・「授業が楽しいか」「先生はよく勉強を教えてくれるか」「国語・算数の授業内容はわかるか」のAB評価の割合が、甲斐市全体の割合に比べてとても高くなっている。理由として、学習における授業者と児童の信頼関係が良好であることや授業準備としての教材研究の充実を示していると考えられる。
 - ・家での学習時間の肯定的評価の割合が高い結果（88%）となっていることから、家庭学習強化週間や日々の自主学習等の取り組みとご家庭でのご協力の成果が表れている。
 - ・本校の課題ともなっている「朝ご飯を食べて登校しているか」の児童アンケートのCD評価が6.2%となり、昨年の11.3%から減少傾向にある。食育の観点からも摂取率100%を目指したい。
 - ・「夢や希望を持っているか」のAB評価が89.7%（甲斐市全体86.2%）となり、将来に向けて意欲をもっている児童が多い。CD評価の児童への手立てを考えていきたい。
- 保護者アンケートの結果では、肯定的評価が90%以上の設問が23問中12問あり、80%以上となると16問となっている。
 - ・「学校はたのしいところだと思う」ではAB評価が95%と高く、児童の思いに保護者も共感していることがわかる。

2 項目ごとの評価結果（達成状況・改善策）

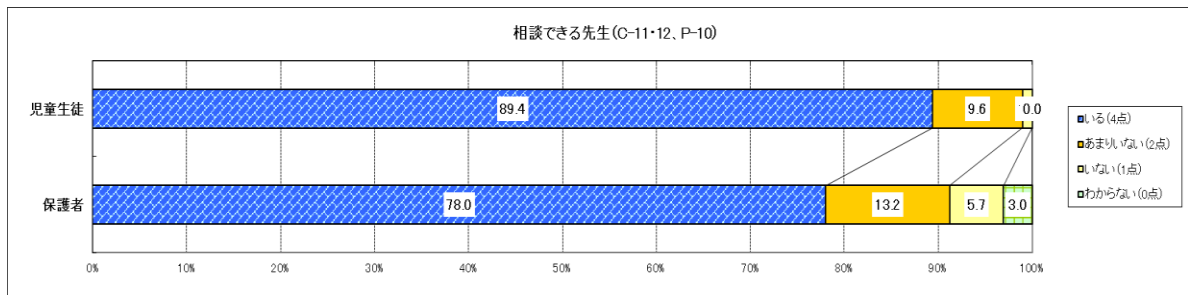
I 学校教育目標に関して・学校経営について

達成状況	<p>○学校教育目標・学校経営についての自己評価5設問中4設問が、肯定的評価（A・B）100%となっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「2 学年の教育活動計画が、教育目標や重点目標を踏まえたものになっている。」についてはA評価が80.6%と、昨年度の65.7%を大幅に上回っている。 反面、「4 PDCAサイクルを意識して教育活動を行っている。」については、A評価が48.6%と他の項目より数値は下回っている。（AB評価は87.6%）
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・学校長より、年度始めや学期始め、職員会議、運営委員会等で学校経営方針に基づいた確認を常に行い、教頭が補佐することで、組織が常にPDCAサイクルの共通認識で教育活動に取り組めるようにしていく。

II 学校運営について（保護者用アンケート等も含めて）

達成状況

- 8 設問中 7 設問で肯定的評価（A・B）が 100%となったが、成果と課題として次の項目が挙げられる。
- ・「1 危機管理マニュアルを理解している。」は、A評価が 28.6%から 44.4%となり、B評価も 55.6%であった。A B評価合計は 100%となり、昨年度の反省を受け、年度始めから周知徹底を行ったことや避難訓練等での事前準備及び指導の結果であると考え。
 - ・課題として示す「4 職務上（報告・連絡・相談・確認）を行っている」は、C評価が 2.8%の割合であった。組織運営上、この項目については 100%の保持を目指したい。
- 学校運営に関わる保護者アンケートの結果は、概ね昨年度より A B 評価の数値が上がっている。
- ・「1 お子さんにとって、学校は楽しいところだと思う。」は A B 評価で 95.2%となり、昨年度同様に高い評価となった。
 - ・「4 学校日より、ホームページなどから教育活動の様子を知ることができる。」は A B 評価で 90.5%となり高い水準の昨年とほぼ同じとなった。ホームページについては、週一回の更新を目標として、全校体制で作成にあたった。学校理解につながっていると考え。
 - ・「6 授業参観や学校開放日などは、子どもの様子を知る機会になっている。」の A B 評価は 98.3%であり、昨年度の 94.9%を上回った。コロナも 5 類になり、行事も戻ってきたことが保護者の参加につながっている。
 - ・「8 学校は、熱心に授業に取り組んでいると思う」の A B 評価は、昨年度と同じ数値の 93.9%であり、今年度も先生方の普段のがんばりが保護者に伝わっている。
 - ・「10 相談できる先生がいますか。」の A 評価は 78%であり、昨年度の 75.6%を若干上回った。否定的回答の割合が約 19%であり、改善を必要とする。また、相関関係でみると児童と保護者にずれがある。



改善策

- ・職務上の連絡等については、組織対応が必要な場合には報連相は文書で行い、共通確認を徹底する。その上で窓口を一本化して職員によって伝える内容に違いがないようにする。
- ・校務支援システムについて活用状況が上向きになってきている。昨年度より、打ち合わせの方式を PC 上の掲示板入力方式にしたこと、旅行や休暇申請等を個人スケジュールに反映したこと、個人データのやりとりをメッセージ機能で行っていることなどが定着してきた。ただし、PCがない非常勤職にとってはわかりにくい部分があるため、紙ベースでの周知も必要な状況である。
- ・教職員に求められる業務量が限界を超えているため、効率化を図っていかねばならない。そのために学校DXの視点に立って事務的な内容をデジタル化していくことが必要で、教職員の働き方への変革となる。また、教育の充実と教職員の心身の健康の両立が現状では難しいが、アクションシートに基づいて取り組み、今後も教職員の意識改革を続ける。
- ・コロナも 5 類となり、保護者が学校行事へ参加する機会も増え、家庭訪問等も行える状況になった。電話連絡も含め、積極的に保護者との連携を密にして信頼関係を構築する。また、担任と保護者が対面で話ができる機会（学年部会等）を確保し、話ができる関係づくりを引き続き

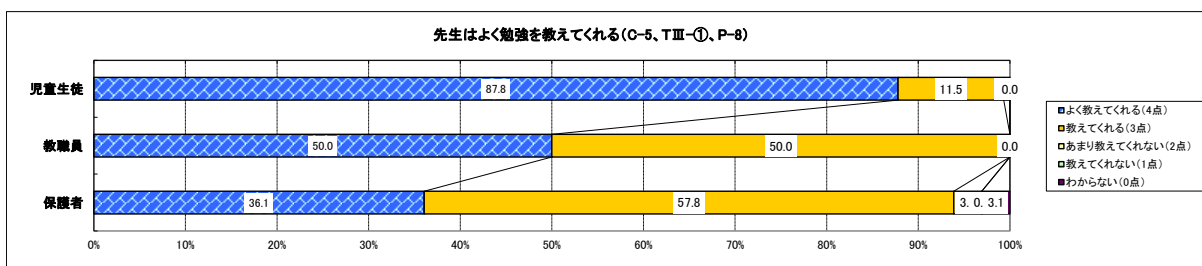
進めていく。

- ・本年度は、教務、各学年輪番でホームページの更新を週に一度行い、児童の学習や行事を画像で紹介する回数を増やした。学校や学年、学級のお便りも精力的に出した。そのためA B評価が高くなったが、C D評価の割合も少なからず示しているのが現状である。今後も学年部会等でどんなことをおたよりやホームページで紹介してほしいのか要望を聞く機会を設けて、学校の様子を知らせるホームページの作成にあたっていきたい。

Ⅲ 学習指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）

- 自己評価では、7設問中6設問でA B評価が90%以上となっている。
- ・「4 ICTを効果的に活用した授業を行っている。」では、昨年度C D評価が16%となっていたのが、C D評価が3.8%となった。校内での研修の効果やICTを活用するという意識の高揚が見られる。ただ「効果的に使う」とは、これまでの授業実践との最適な組み合わせを表すことから、タブレットを使えばよいのではなく、これまでの実践による教育効果をタブレットでより高めることはできているかということになる。今後は質の高い「ICTの効果的な活用」を目標に取り組んでいく必要がある。
- ・「7 ALTと連携して、児童が興味関心を持つような外国語活動を行っている。」については、英語専科教師が主導してALTと授業を行うために学級担任はサポート的な立場になる。そのためA回答が低くなっている。7設問の中でこの項目のみA B評価が90%を下回っている。
- 保護者アンケートでは、「9 お子さんは、授業の内容がわかっていると思う。」のA B評価が89.1%で、昨年度と86.2%より若干の上昇が見られる結果となっている。
- 児童アンケートでは、「4 学校の授業は楽しいですか。」のA B評価が95.3%で、昨年度の93.2%より上がった結果となっている。その一方でC D評価が4.8%（14名）いることを重視しなければならない。
- ・児童アンケート「5 先生はよく勉強を教えてくれるか。」はA B評価が99.3%となったが、教職員、保護者との意識のずれがある。

達成状況



【設問4】

甲斐市全体：竜王南小
 A 46.7%⇔55.6%
 B 43.1%⇔39.7%
 C 7.3%⇔3.1%
 D 2.9%⇔1.7%

【設問5】

甲斐市全体：竜王南小
 A 78.8%⇔87.8%
 B 19.5%⇔11.5%
 C 1.5%⇔0.7%
 D 0.2%⇔0.0%

- ・児童アンケート「6 国語の授業内容はわかりますか。」は、A B評価が96.6%、C D評価が3.4%（10名）となった。また、「7 算数の授業内容はわかりますか。」は、A B評価が94.6%、C D評価が5.5%（16名）となった。

国語	算数
甲斐市全体：竜王南小	甲斐市全体：竜王南小
A 55.3⇔65.1	A 57.5⇔67.7
B 38.8⇔31.5	B 34.4⇔26.9
C 4.9⇔2.0	C 6.6⇔4.1
D 1.1⇔1.4	D 1.5⇔1.4

- ・「9 授業でわからないことを先生に聞いているか。」は、A B評価が 84.4%だが、A評価が 44.7%と、昨年度の 48%から若干の減少となった。しかし大幅な減少ではなく、昨年と横ばいと見ることや、対話を重視した研究を進めていることから、授業者と児童の信頼関係が深まっていることと授業への意欲が高まっていることが高水準で結果として表れている。
- ・「17 学年の目標時間の勉強をしていますか。」はA51.0%（昨年 45.1%）、B37.4%（昨年 43.1%）、C8.5%（昨年 8.5%）、D3.1%（昨年 3.4%）と、目標時間勉強ができる児童の割合が増えている。自学の取組の周知や指導の徹底が、質の向上につながっている。

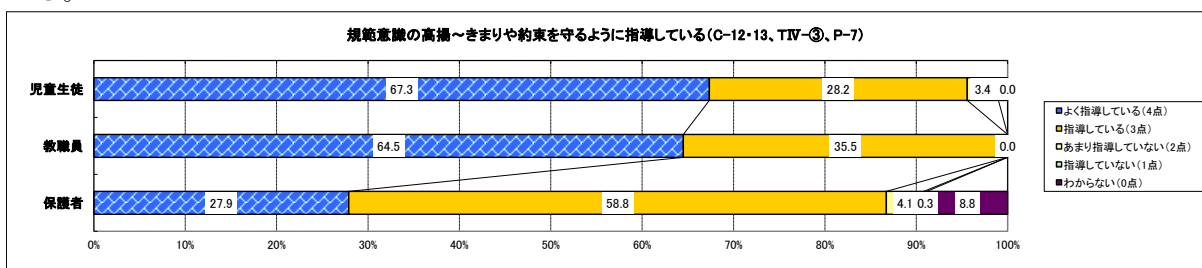
改善策

- ・主体的・対話的で深い学びへの授業改善が求められている中、個別最適な学び、協働的な学びの実現に向けて、校内研を中心に共通認識を持って取り組んできている。また、管理職による教職員同士の学び合い、授業観察も進めている。児童アンケートの結果が、肯定的評価が高いことは我々にとって大きな成果であり、これを励みにして今後も授業改善に努めたい。
- ・学校 DX の視点からもタブレットの活用は現在学校現場において最重要事項であり、今後も研修等を通して教職員のリテラシーの向上を図っていかねばならない。学級担任が、担当する学年が変わってもタブレットを活用できるように、今後も研修や学び合いを進めていく。

IV 生徒指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）

達成状況

- 生徒指導についての自己評価は、すべての設問でA B評価が 90%以上となった。
- ・「4 キャリア教育を児童生徒の実態に応じて行っている。」では、A回答の割合が 37.0%と、他の設問に比べて低くなっているが、昨年度の 18.2%から大きく上昇した。キャリアパスポートの取組も軌道に乗ってきたのが要因の一つと考えられる。今後も、小学校のキャリア教育は基盤形成の時期であり、小学校低学年では、学校生活に慣れる・身の回りの事象への関心・自分の好きなことを見つけて活動すること、中学年では友達と協力して深める・自分の持ち味を發揮し、役割を自覚すること、高学年では役割や責任を果たし、役立つ喜びを体得すること・集団の中で自己を生かす・自らの夢や希望をふくらませることであり、人間関係形成能力・情報活用能力・将来設計能力・意思決定能力の育成にあることを、研修を通して理解を深めていき実践につなげていきたい。
- 規範意識の指導については次のグラフのようになっていて、A回答において児童と保護者に開きが見られる。保護者には、「わからない」との回答も一定数あるので、学校での指導のようすが伝わっていないことも考えられる。学年総会等の場で生徒指導理解を図っていく必要がある。



改善策

- ・生徒指導提要在改訂され、生徒指導の定義が、「児童生徒が、社会の中で自分らしく生きることが出来る存在へと、自発的・主体的に成長や発達する過程を支える教育活動」となった。生徒指導という、今までの認識では「問題行動があった時の対応」のようにとらえがちだが、「させる指導」から「支える指導」となり、特に、「発達支持的生徒指導」として児童生徒の「個性の発見とよさや可能性の伸長と社会的資質・能力の発達を支えるように働きかけること」が求められている。すでに様々な場面において「児童が自発的・主体的に成長や発達する過程を支える教育活動」を行ってきているが、全職員が生徒指導としての認識も持って取り組む。
- ・今後も学級経営を充実させてお互いに認め合える雰囲気をつくったり、校内研の「ハートフルタイム」を通して自己有用感や自己肯定感を高める取組を継続していきたい。

	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導上の困難な課題は、早期対応を念頭に組織対応で行う。そのための報連相を徹底する。
V 地域との連携について	
達成状況	<p>○自己評価6設問で、AB評価が95%以上だった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「1 教育活動の中に地域の人材や施設を活用し、地域の教育力を生かす指導を行っている。」で96.6%のAB評価となっている。コロナが5類となり授業参観を始め、保護者、地域の方々や行政の方々などのゲストティーチャー等の活用が各学年で行われ、その充実度が高い数値になっていると考える。 ・「3 たよりやホームページを通して保護者や地域に広報している。」は、昨年と同様に自己評価がAB評価で100%となっている。ホームページも週に一回更新するようにしたことも理由として挙げられる。しかしA評価が昨年の87.5%に対し、本年度は77.8%となっている。学校長からの学校だより及び学年・学級だよりが定期的に発行されていること、広報は充実していると考え、保護者アンケートの結果ではAB評価が90.5%、CD評価が8.2%（わからない1.0%）となり、認識にやや違いがある。 <p>○保護者アンケート「11 PTA活動に参加していますか」の肯定的評価が71.3%と昨年とほぼ同様の結果となっている。コロナも5類となり、PTA活動も以前のように戻ってきたが同様の数値となった。昨年度より体育着リユース活動が始まったり、運動会のテント設営や片付けへのご協力の広がりがあったりと、昨年度より充実した活動ができている部分はあるが、評価に対しては温度差がある。</p>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・信頼される学校づくりには、保護者や地域の理解が必要になる。コロナも5類となり、教育活動が以前のように戻ってきている中、さらなる情報発信の工夫を考えながら取り組んでいきたい。 ・今年度もおたより（学校・学年・学級）やホームページで様子を伝えることには力を入れてきている。今後もできる限り伝えることで信頼関係を深めたい。 ・PTA役員になる前は活動に消極的だったが、活動を通じてPTA活動のよさを理解できた方もいる。今後も保護者と学校の負担にならない範囲でより充実した活動をつくっていきたい。
VI 学校の特色に関して	
達成状況	<p>○学校の特色の4設問すべてでAB評価が100%になった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「1 児童会行事に進んで取り組むよう指導に努めているか。」は、全教職員が児童会活動の意義を児童に捉えさせ、価値ある活動として位置づけて活動している結果と考える。 ・「2 教室環境づくりに努める」「3 児童が自分の考えを発表できる指導」「4 朝読書・朝学習の充実」については、校内研究「対話により考えを広げ深める授業改善」とも関連して、学校全体で組織的に指導をしてきている成果が出ているととらえる。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・児童会活動は異年齢集団として児童の縦のつながりが深まるとともに、6年生のリーダー性を高め、全児童の社会性が身についていくので、児童会執行部の企画に対して、教職員も理解し目的をもって取組を進めていきたい。 ・今後も竜王南小の学校教育目標の達成を目指し、組織的に取り組んでいく。学級担任の意識が継続できるように、職場において対話を重視し、他学年、他学級の取り組みの様子を知ること、互いに刺激し合える機会をもつ。
VII 創甲斐教育について	
達成状況	<p>○創甲斐教育の3設問すべてでAB評価が95%になった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「1 基本的言語事項の習得」「2 ライフタイム等を通し、自己を振り返り表現できる」については、校内研究で「OPPシート」という学習振り返りシートを児童が記述する指導を中心として、各学級で日記等を書かせることも行ってきていることから言語活動が活発になって

	<p>いるととらえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「3 外遊びや縦割り班活動に進んで取り組む」では、特に外遊びで、中休みや昼休みに児童と一緒に遊ぶ教職員が何人もいることはとても良いことある。遊びの中で児童の世界観や実態を知ることによって児童理解と相互の信頼関係を深めていくことにつながる。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も語彙を増やす学習や日記等のひとまとまりの文章を書く取り組みを各学級で継続して行っている。また、OPPシートの効果も確認されているので、今後も継続していく。振り返って書くことで経験・学びを頭の中で整理し再認識するため、思考力や認識力が身につく。認識する力が高いほど生活が豊かになることを教師が理解して取り組んでいく。 ・休み時間等には保護者に向けての連絡帳の記入や欠席児童への対応、授業準備、学級事務もしなくてはならない現状があるが、遊ぶ時間も児童の実態把握の時間ととらえ、遊ぶことを通して児童との信頼関係を今後も築いてほしい。今後も教職員ができる範囲で遊ぶ機会を設け、児童理解の幅を広げていきたい。
<h3>3 まとめ</h3> <p>〈成果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の自己評価では、すべての項目において、肯定的評価（A・B）が高く、全体的に達成できている。学校長の学校経営方針の下に、全教職員が学校教育目標達成に向かって共通理解をして教育活動にあたっていることが、今年度も確認できた。また、児童・保護者アンケートにもその成果が反映され、特に児童アンケートについては、全体的にA評価の割合が高くなっており、項目に対する質の向上が見られる。ご家庭でのご理解とご協力をいただいていることが確認できた。 ・家庭学習時間と授業改善については、取り組みの成果が表れている。また、おたよりやホームページの充実も引き続き進めていきたい。 <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の本校の課題であった「朝食の摂取率」については、昨年度に比べて上昇をした。しかし、児童アンケートではCD評価が6.2%（18人）、保護者アンケートではCD評価が7.5%（22人）という結果であった。家庭によって様々な理由があると思うが、児童の健やかな成長を踏まえた食育の観点からも、双方100%を目指して今後も取り組んでいく必要がある。 ・効果的な学習指導や働き方改革のために、学校DXの視点から、タブレット端末等、ICTの活用について、今後も教職員全体で研修等を通して学びを深め、環境改善のために推進していく必要がある。 ・昨年度も課題として挙げたが、児童アンケートの「夢や希望を持っているか」の項目でCD評価が10.3%（30人）を示した。児童が自分の生き方を主体的にとらえ、希望をもって生活できる手立てを考えていきたい。 	